

令和7年12月19日
(2025年)

保護者のみなさまへ

吹田市立津雲台小学校
校長 鬼頭 孝雄

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数と理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語

《概要》

今回の学力調査は、すべての領域で全国値を上回る結果でした。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

言葉の特徴や使い方に関する事項

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

情報の使い方に関する事項

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

話すこと・聞くこと

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

書くこと

・どの問題も全国値を上回っているものの、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」は正答率が低く、課題が見られました。

読むこと

・どの問題も全国値を上回っているものの、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」は、正答率がやや低く、課題が見られました。

●国語科における成果と今後の改善点について

全ての項目で全国値を上回る結果でした。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、全国値を大きく上回っており、引き続き相手や場面に応じた適切な言葉の使い方等指導していきます。

「話すこと・聞くこと」においては、意見や提案などを聞く際に、事実と意見とを分けて聞くことができるよう指導していきます。

「書くこと」においては、学習指導要領で示される指導事項をしっかり押さえたうえで、低学年では「見聞きしたことを書く活動」、中学年では「事実や、それを基に考えたことを書く活動」、高学年では「考えたことや伝えたいことを書く活動」を系統立てて指導していきます。

「読むこと」においては、登場人物の行動や気持ち、相互関係や心情などについて叙述や描写を基に捉えたり、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持ち、自分の考えをまとめたりする学習場面を数多く設定します。主な言語活動としては、低学年では、「読み聞かせを聞いたたり物語などを読んだりして内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」、中高学年では、「詩や物語などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことなどを伝え合ったりする活動」を系統立てて指導していきます。

●算数

《概要》

今回の学力調査は、すべての領域で全国値を上回る結果でした。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

図形

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

変化と関係

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

データの活用

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できているものの、「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」は、正答率が低く、課題が見られました。

●算数科における成果と今後の改善点について

全ての項目で全国値を上回る結果でした。

「数と計算」においては、情報を整理し、図や言葉を使いながら論理的に説明できるよう指導を充実させていきます。

「図形」においては、図形を構成する要素にも着目させ、見通しを持たせながら簡潔かつ的確な表現を用いることができるよう指導していきます。また、公式を適切に使用できるよう既習事項を繰り返し復習し、図を使いながら問題を解き進めることができるよう指導していきます。

「変化と関係」においては、複数の情報から数量を見だし、その関係を式や言葉の式に表現することができるよう指導していきます。増量前の量を基準量として、基準量を100%としての比較量を表したり、基準量を1としての比較量を表したりすることで、『増えた分』と『増量後の量』の違いを明らかにし、図と式や言葉を用いて説明する活動を取り入れます。

「データの活用」においては、必要な情報や着目すべきポイントを提示して、選んで自分の考えをまとめられるよう指導していきます。文章問題等においては、必要となる情報やヒントを提示して取り組ませ、データのどこに着目すればよいかを指導していきます。

●理科

《概要》

・「地球」の領域のみ全国値をやや下回り、その他の領域については全国値を上回る結果でした。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

エネルギー

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

粒子

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

生命

・どの問題も、正答率が全国値を上回りよく理解できていました。

地球

・問題文の「結果」を使って、数値を用いて記述することができていない回答が見受けられました。

●理科における成果と今後の改善点について

ほぼ全ての項目で全国値を上回る結果でした。

「エネルギー」においては、金属の性質について「金属は電気を通す」という共通の性質が理解されておらず、また磁石に引き付けられるのは「鉄だけ」という知識が不十分でした。実験を通して「アルミホイルや銅は電気を通すが磁石にはつかない」ことを体験させる、「金属の共通点」「鉄の特別な性質」を分類して学ばせるなどの活動を行います。

「粒子」においては、物質の状態変化の理解不足、用語と現象の結びつきの不十分さが見受けられました。見えない部分と見える部分を比較するなど観察を通じた理解の定着、状態変化のプロセスを図で整理、「湯気＝温められるもの」ではなく、「温められて生じる結果」であることを言語化させる活動を取り入れるなど用語と現象の結び付けを強化します。

「生命」においては、器具の操作で間違いが多く、「ピントを合わせる」＝「調節ねじを回す」にながっていませんでした。用語の正確な理解と使用の徹底や、実物操作と用語を結び付けて学習することで視覚と表現の両面から定着を図っていきます。

「地球」においては、実験結果をもとにまとめを書く活動において、数値を使うことのメリット(正確さ・比較・変化・法則)を明確に伝えていきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と答えた児童は全国値を上回っていました。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童は全国値をやや下回っていました。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的に答えた児童は全国値をやや上回っていました。

【教科・学習について】

- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童は、全国値を上回っていました。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童は、全国値を上回っていました。
- ・「国語の勉強は好きだ」と答えた児童は、全国値を上回っていました。
- ・「算数の勉強が得意、好き」「算数の授業で学習したことは普段の生活の中や将来に役立っている」と答えた児童は全国値を上回っていました。
- ・「理科の勉強が得意、好き」「理科の授業で学習したことは普段の生活の中や将来に役立っている」と答えた児童は全国値を下回っていました。

3 今後の取り組み

今回の全国学力・学習状況調査は、全体的に全国値を上回る結果となりました。これも保護者の皆さまが、子どもたちの学習環境づくりに日々留意して下さっているおかげだと思います。今後も引き続き、ご協力よろしくお願いいたします。今回の調査で明らかになった課題につきましては、しっかりと検証し、課題解決に向けた取り組みを充実させてまいります。

学習面においては、学習指導要領でも示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、以前より取り組んでいる「伝え合う力」の育成を基盤にして、学習で得た知識・技能を活用しながら、自分

の考えを書いたり発表したりする活動を随時取り入れていきます。「書くこと」に関しては、教科横断的なカリキュラムを作成し、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していきます。また、一人一台端末(iPad)を思考を深めるひとつのツールとして有効的に活用していきます。複数の教科の連携、そして地域とも連携しながらカリキュラムマネジメントを行い、子どもたちの「生きる力」を育てていきたいと思ひます。学校での学びを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を学校生活にいかしながら、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長の手助けができればと思ひます。

学習環境や生活環境等に関する調査結果では、今年度も家庭教育力が高く、児童にとって恵まれた環境にいることがわかりました。学校でも教育活動全体を通して、子どもたちの良いところを認め、また互いに認め合い共に学び合う機会を作り、自尊感情を育てていきたいと思ひます。また、全学年でのいじめ予防授業、トリプルチェンジやデジタルシティズンシップ教育も引き続き実施していきます。

学校では、子どもたちがどんな状況にも対応できるよう思考力・判断力・表現力の育成に努めてまいります。今後の学校の取り組みにもご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。